

障がい者・児の願い～熊本市へ要請

7月24日、「障害者・児の生活を豊かにする会（地下憲征会長）」は、障がい者が抱える悩みや苦難の解決を求め、熊本市に要望書を提出し、懇談を行いました。要望項目は、いずれも切実で早急な解決が求められるものばかりです。共産党市議団も参加し、制度創設・改善などを求めました。

障がい者福祉タクシー券については、ガソリン券との選択制を！

障がいのある方や家族にとって、移動手段の確保は切実な願いです。現在は、バスや電車でのさくらカード、福祉タクシー券（初乗り分360円補助）の制度があります。しかし、障がいの状況によってはバス等が利用できず、またタクシーも経済的な負担が大きいため利用できない方も多くいます。こうした課題を解決するため政令市7市などでは、タクシー券かガソリン券かを当事者が自由に選択できる制度が実施されています。

熊本市「障がい者へのアンケートを行い総合的に判断したい」

対応した障がい保健福祉課からは、「障がい者の社会参加を進めるためにも移動手段の確保は大切な問題。現行の制度を利用できない人がいないか、実態を把握するために今年度中にアンケートを予定している。結果を踏まえ、総合的に判断したい」と、一步踏み込んだ回答が寄せられました。



【要望項目】

- 重度心身障害者医療費助成は、償還払い（いったん窓口で全額負担後、数ヶ月後に還付）ではなく、現物給付（窓口での負担なし）へ。
- 入院中24時間付き添いが必要な障がい者・児への公的支援を。
- インフルエンザ要望接種費用への助成を。 ・ さくらカードの無料化など

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

熊本市中央区手取本町1-1 議会棟 ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/

NO. 810

2012年7月29日

電話 328-2656

FAX 359-5047

9月議会の日程が決まりました

8月27日…開会・本会議（提案理由説明）

8月29日～9月3日…一般質問（8名）

9月5日…予算決算委員会（概要説明）

6、7日…予算決算委員会（総括質疑）

10日…予算決算委員会分科会・各常任委員会

14日…予算決算委員会（締めくくり総括質疑）

18日…最終日・本会議（委員長報告・質疑・討論・表決）

◆ 請願の締め切りは8月27日午後5時です。

◆ 陳情書の提出は8月30日午前までをお願いします。

なすまどか議員が一般質問を行います

8月30日（木）午前10時より、なすまどか議員が一般質問を行う予定です。水害対策や立野ダムについて、中心市街地の再開発・まちづくりについてなどを予定しています。取り上げてほしいことやご意見などがありましたら、ぜひお寄せください。



【控え室から】
豪雨水害の現場から

なすまどか

7月12日、熊本市を襲った豪雨は、白川の氾濫と同時に多くの住宅を流し、床上・床下浸水なども含め大きな被害を生みました。被害にあわれた方々に対して、心からお見舞い申し上げます。

水害が発生した直後に現地へ行き、住民の声を聞きました。泥のかき出しや家財の運び出しなど、災害直後の段階では、住居回復への支援。そして、今は、支援制度の窓口が、福祉・住宅・水道・教育など多数あり手続きが大変なことから、一か所で手続きができるワンストップ窓口の設置の要望も多く寄せられています。また、住宅についても、全壊と半壊では支援内容が異なることから住宅支援の充実を求める声も出されました。

先日、泥出しボランティアで、あるご家庭に行きました。大変な被害にあった中でも、ボランティアへの感謝と気遣いをしながら、必死に泥出しをされている姿に触れ、一日も早い復旧を願わずにはいられませんでした。被災者の立場・実態に即した支援が求められます。

同時に、河川整備の遅れや避難指示のあり方など、行政の側の問題も明らかにする必要があります。立野ダムの是非なども含め、9月議会一般質問で取り上げる予定です。

「みんなでつくるホンモノの地方自治」 第54回自治体学校に参加して～益田牧子

7月21日～23日、浜松市で開催された自治体学校に参加しました。「教えるとは希望を語ること、学ぶとは誠実を胸に刻むこと」(フランスの詩人L・アラゴン)をモットーに、自治体職員、議員、住民が集い、大学の先生など専門家の講演や助言を受け、実践を交流し、真剣に学びました。

心に沁みしたのは、生活保護面接員の現場からの報告でした。不正受給は総額の0、38%で、悪質はごく少数なのに、生活保護引き締めや切り下げ政策が行われれば、札幌市姉妹「病死・餓死」事件のような悲惨な事件が相次いで起こりかねないと告発。報告者の作詞・作曲の「傷名」～二人の姉妹が死んだ、凍てつく部屋の中で、姉さんは病死だった、妹は餓死で死んだ…なぜ二人は死ななければならなかったのか、誰に二人は殺されたのか～自作・自演の歌声に胸が締め付けられました。熊本市で、最後の頼みである生活保護を受けられず、死に至る悲惨な事件を起こしてはならないと心に誓いました。

「経済の再生で笑顔あふれる地域社会を」分科会報告

岡田知弘京都大学教授の講演では、「地域が豊かになる」とは、住民ひとり一人の生活が維持され向上することであり、住民が住み続けることができなければ、「活性化」とは言えない。地域内にある経済主体(企業、商店、農家、協同組合、NPO、地方自治体)が、毎年、地域に再投資を繰り返すことで、仕事と所得が生まれ、生活の維持、拡大を通して、自治体の税源が保障される「地域循環型経済」の重要性が指摘されました。

「住民生活の向上」に直接つながる地域産業政策を!

地方自治体の産業政策では、「巨大公共事業や企業誘致政策」を見直し、国民・住民の消費・購買力を拡大し、生活向上に直結する改革こそ必要。地域経済の担い手である中小企業・農家を第一に優先する政策転換と地域産業の実情に合った独自の産業政策を地方自治体が持つ重要性が指摘されました。

大きな役割を發揮している「中小企業振興基本条例・公契約条例の制定、住宅リフォーム助成制度等の活用」が紹介されました。

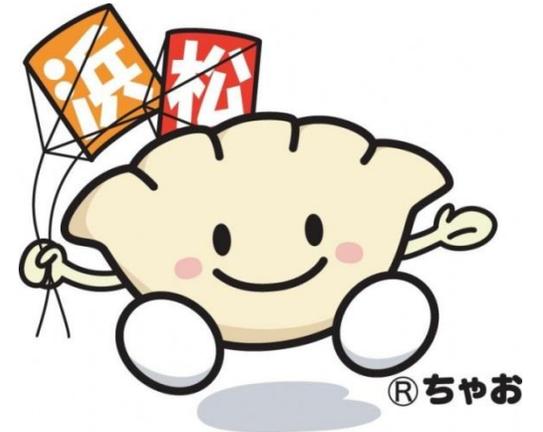
近江八幡市、帯広市の参加者から、「住宅リフォーム助成制度」についての発言があり、地域への大きな経済波及効果があることが報告されました。

地域で宝探し、「浜松餃子」でまちおこし

パワーをもらったのは、浜松餃子学会・斉藤公誉会長の報告でした。浜松市民が餃子をよく食べ、お店も多く、「地域の宝」であることに注目。05年7月の「合併まつり」をきっかけに、多様な職種が集まり、ボランティアで「餃子でまちおこし」がスタート。毎年「浜松餃子マップ」を作成。ばかばかしいことにも真剣に取り組み、今では、11団体で「全国餃子サミット」を開催するまでになっています。因みに、夜の交流会では、浜松餃子をおいしく食べました。

地域づくりは楽しく、夢を語り合おう

岡田先生からは、地域づくりは、地域の「宝物」を発見し、地域を知り、科学的に将来を見通せる研究・調査・学習活動が不可欠。楽しみながら夢を語り合い、「お金持ちよりも、<人もち>、<心もち>になりたい」。「バカモノ」「ワカモノ」「ヨソもの」が地域づくりを担う。地域づくりで「万年青年」に!と嬉しい助言が…。



八尾市「中小企業振興基本条例」を制定、府下に拡大

八尾市では、1999年3月、市議会全会一致で、「政府・大阪府に地域経済充実を、八尾市に基本条例を求める決議」を可決。八尾市産業振興会議で条例案を検討し、01年3月関西で初めて、「八尾市中小企業振興基本条例」を制定。02年には、中小企業サポートセンターを設置。「基本条例」制定を作って終わりではなく、

「産業振興会議」「基本条例」「総合計画」とリンクして、事業が進められています。大規模開発型の産業型の失敗から、中小企業施策換が前進。大阪府、吹田市、大東市、枚方市、大阪市、泉南市、貝塚市などで基本条例が制定されています。

